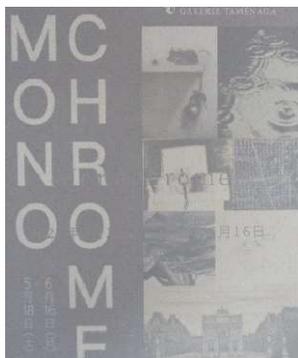


展覧会「モノクローム (Monochrome) 展」

ギャラリーためなが (中央区銀座 7-5-4) 24. 05. 18~06. 16

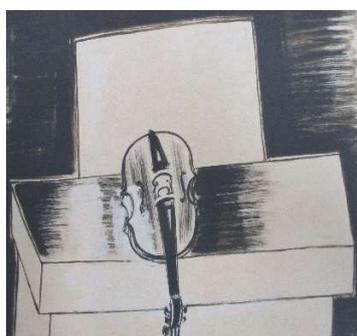


本展は、フランス近代から国内外の現代作家「21人」が描く、色彩を切り詰めた白黒の世界に、自身の感情や内面あるいはモチーフの存在自体を描きだしてきた「モノクローム作品 40点余」を一堂に集めた催事である。

近代作家では墨で細い輪郭線を引いた「藤田嗣治」や、戦後フランスを代表する具象画家「ベルナルド・ビュフェ」に加えて「ラウル・デュフィ」「ジョルジュ・ルオー」の作品を目にすることができる。一方、現代作家では東洋と西洋の要素を融合した抽象画を手がける、中国生まれ・パリ在住の「チェン・ジャン・ホン」が新作を発表するほか、緻密な幻想世界を繰り広げる「北川麻衣子」に、日本の伝統的な画材の松煙墨や雁皮紙等を用いて壮麗な自然を描き出す「菅原健彦」などの作品が出展されている。モノクロームの限られた色だからこそ浮彫になる多彩で豊かな表現の作品を楽しめる。



藤田嗣治《座猫》紙・墨



ラウル・デュフィ《バイオリン》紙・インク



チェン・ジャン・ホン 《絃》油彩/カンヴァス

中国・天津生まれで、北京の中央美術学院を卒業後フランス・パリに移住して、フランス国内外で個展を開く。中国の伝統ある水墨画手法を用いた迫力ある絵画が高く評価されて、画家として成功をおさめる。1996年に絵本作家としてデビューして、ヨーロッパ各国やアメリカでも翻訳され好評を博している。『この世で一番すばらしい馬』(徳間書店)は、2005年にドイツ児童図書賞を受賞している。他に『ウエン王子とトラ』(福間書店)などの書籍がある